

ワークショップ
第1回の勉強会を開催しました

日 時：平成 28 年 7 月 30 日（土曜日）9：00～11：30

場 所：上尾市市民体育館 会議室兼スタジオ

参加者：30 名

プログラム：

- ①町界の変更・町名の検討の趣旨と進め方
- ②町界・町名等の現状について
- ③グループ討議
町界・町名等の現状について
- ④グループ討議の発表と今後の予定



町界変更・町名検討の趣旨と進め方

- ◆大谷北部第四土地区画整理事業は、北が駅前通り、南がニッサン通り（UDトラックス前通り）、東が大谷中学校前通り、西が太平中学校前通りに囲まれた区域で、平成 33 年の完成を目指して事業が進行中です。
- ◆区域は、区域内に大字耆丁目、向山、今泉、川、大谷本郷、地頭方、小敷谷の7つの大字が混在しており、字界も複雑であり、飛び地も存在する状態です。そのため、区画整理事業の完了に合わせて、基盤整備地区も含めた幹線道路で囲まれた地域（69ha）について、新たな町界・町名の検討を行っていきます。
- ◆現状では新たな町界・町名については何も決まっておらず、将来にわたってこの地域に住む皆様と話し合いながら検討を進めていきます。



■ 基盤整備地区

ワークショップ
10/1(土)9時から第2回 勉強会 を開催します。

場所：上尾市市民体育館 テーマ：地域の歴史・風土について
是非ご参加ください。また、みなさまの意見をお寄せください。

町界変更・町名検討のスケジュール

＜全体スケジュール＞

- ◆平成 28 年度の勉強会開催（3 回）、平成 29・30 年度の検討協議会の検討に基づいて、平成 32 年度に住所の変更を行う予定です。
- ◆必要に応じて、関係者のみなさんへのアンケート調査を実施します。

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
勉強会の開催	年3回				
検討協議会(仮)の開催		年4回、計8回程度		● 変更案決定	
アンケート調査		■■■■ 必要に応じて			
行政手続き				● 議会承認	● 住所決定

＜勉強会の開催＞

- ◆町界・町名を検討するにあたって地域の歴史や風土、現在の町界等の課題について共有するために勉強会を開催。ワークショップ形式で参加者に自由な意見交換を行ってもらい、その意見をもとに検討協議会にて検討を行います。
- ◆勉強会開催にあたっては、区画整理地区内の公園設計を行っている都市づくり NPO さいたま（通称つくたま）と芝浦工業大学作山研究室に、勉強会の進行、支援を依頼しています。

地域の地名の由来

出典：「上尾の地名」

壹丁目（いっちょうめ）

承久の乱（1221 年）以降に源頼朝により各地の荘園に設置された新補地頭職は田畑 11 町につき給料地として 1 町を与えられていた。税を払う必要の無いこの 1 町の土地を「免田」（めんでん）と呼び、「一丁免田」（いっちょうめんでん）→「一丁免」（いっちょうめん）となり、埼玉県地名誌によると、この地頭の 1 町免田に由来する地名とされている。

今泉（いまいずみ）

イマ（今）は「新しい」という意味。イズミは「湧泉地」という意味で大地の周辺には地下水が湧き出ている前面に田が広がり、後ろに森をひかえて上水道が普及するまでは居住のための最適地であったことからこの地名となった。

向山（むこうやま）

大谷本郷から見て「向こうのヤマ（山。森。林）」という意味。または上尾側の台地からみて「（鴨川をへだてた）向こうのヤマ」という呼び名か。

川（かわ）

鴨川に沿った地であることからこの地名となった。

地頭方（じとうがた）

「地頭の領分」という意味。中世の荘園において鎌倉時代以降、地頭が勢力を増し、領主の支配権を次第に奪っていき、両者の勢力争いの妥協策の 1 つとして下地中分（したぢちゅうぶん）が行われ地頭方と領家方に土地を半分ずつにした名残からこの地名となった。

小敷谷（こしきや）

コシ（崖）・キ（接続語か?）・ヤ（湿地）で崖下の湿地という意味の地名

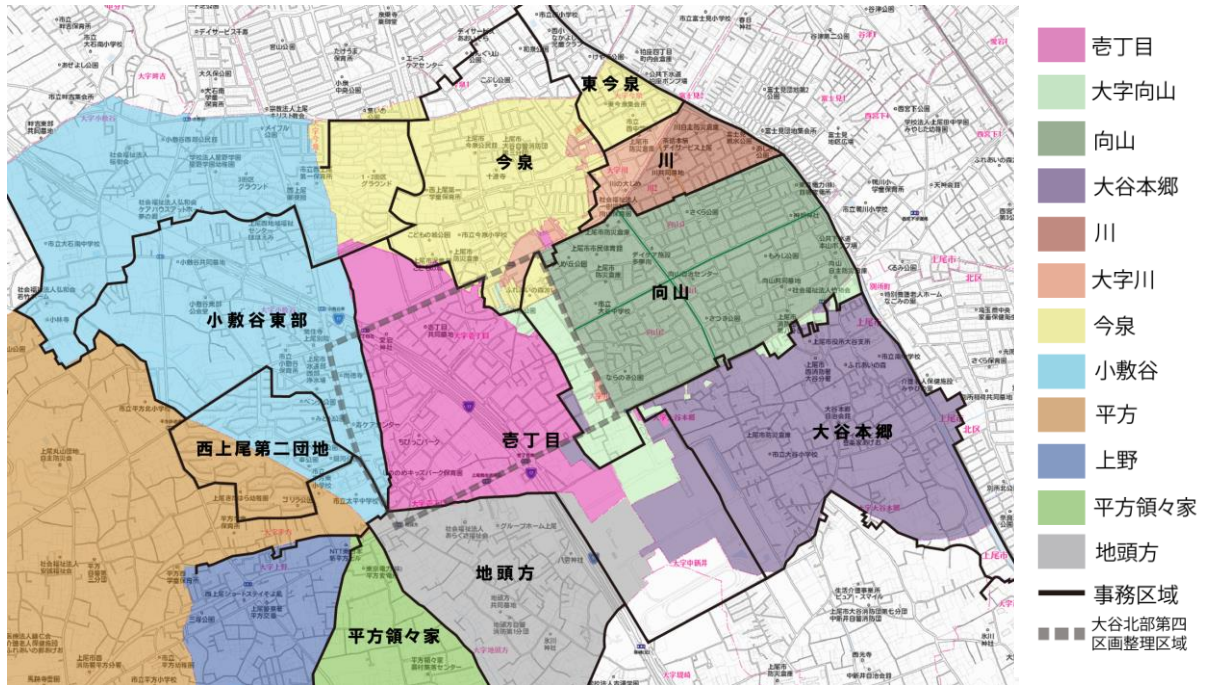
大谷本郷（おおやほんごう）

オホ（大）・ヤ（ヤチ。湿地）で、「大きなヤチ、湿地」が由来。

現在の社会圏域

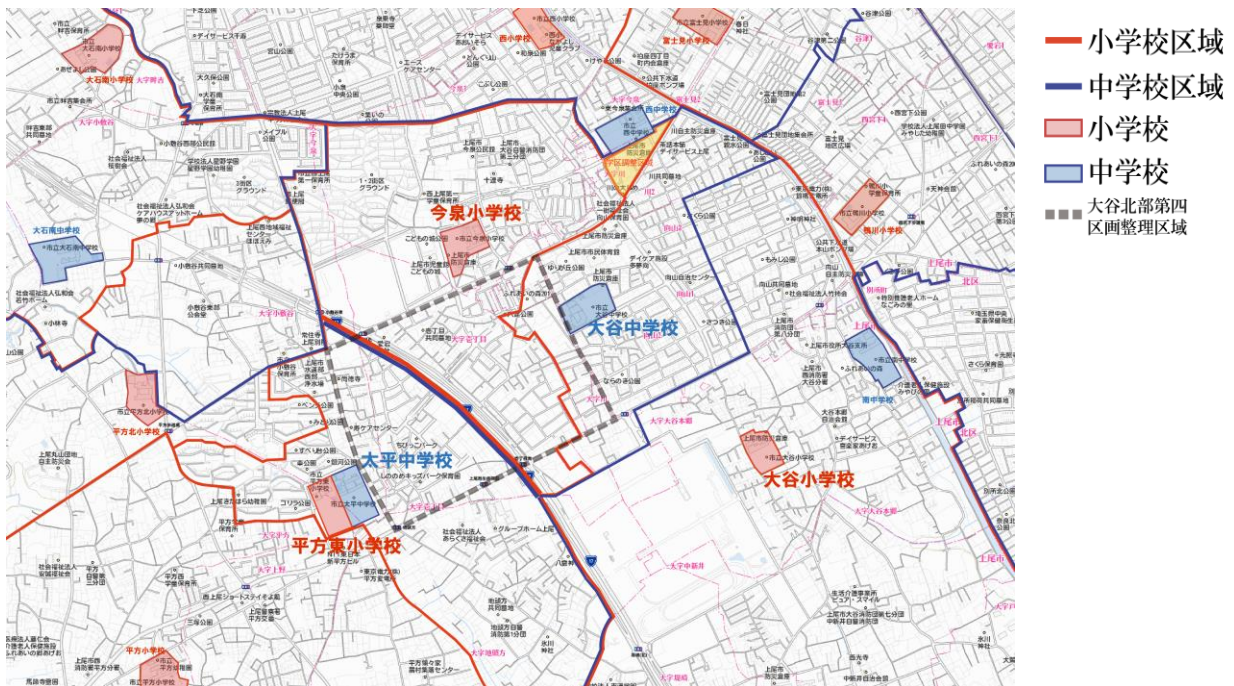
<町丁目区域と事務区域>

- ◆大谷北部第四土地区画整理事業区域には、巷丁目・向山・小敷谷・地頭方・大谷本郷・川・今泉の7つの大字が入り混じっている。
- ◆自治会の活動区域となる事務区分は、活動の便宜上、町界をやや簡略化して区域が定められている。



<小中学校区>

- ◆小中学校区は、町界とは別に定められている。
- ◆大谷北部第四土地区画整理事業内は、上尾道路を境に2つの中学校区と3つの小学校区に区分されている。



第1回勉強会での主な意見を紹介します

一部分かりにくい町界が存在する

- 飛び地のため土地が分かりにくい
- 番地や飛び地は整理してほしい
- 分かりにくい町界は変えるべき
- 小敷谷で壱丁目に近い所は仲間外れのようなところがある
- 様々な町界が入り組んでいることが問題点
- 町界が入り組んでいることから行きたい学区に行けない場合がある
- 将来的にきれいに分けた方が良いのではないか

現在の事務区を尊重してほしいとの意見が多かった

- 事務区は生活上重要なので変更する場合は慎重に変更してほしい
- 事務区区分の境界を尊重して進めてほしい
- 複雑な町界であることから町内会に入りづらい仕組みになっている
- 大きな道路を挟んで町内会があると不便ではないか
- 町名と自治会区分を切り離して考えることは出来ないか
- 町名・町界が変わったとしても現自治会から変わらなければ納得しやすいのではないか
- 向山は市内でも大きな自治会なので分断してほしくない

町界のとり方について

- 大きな幹線道路で区切るべき
- 上尾道路を基準に東西を分けるのはどうか（そう思う住民は多くいる）
- 検討範囲外ではあるが幹線道路を越えて同一町名があるところはどうなるか
- 町界となる道路の幅員に基準はあるのか

町名を残すべきという意見

- 今ある地名は残してほしい
- 地名を変えると由来が分からなくなる（100年後などを考えたとき）
- 生まれ育った場所なので壱丁目という名前を残してほしい
- 川の地名は変更しないでほしい
- 向山の町名を尊重して町名変更に努めてほしい
- 歴史的な要素は残すべき（壱丁目に愛着を持っている人は多い）
- 壱丁目という町名はここにしかない

変更した場合の意見

- 「壱丁目東」「壱丁目西」などにしたほうが良い
- 地名が変わるならきれいな地名が良い
- 地域全体が1名称というのは難しいのではないか
- 向山については「向山5丁目」の町名を希望したい
- まだ住民には町名変更があるかもしれないという認識が無い

検討区域外の問題

- 向山は隣接する区画整理から取り残されている
- 上平中央の事例は、小さい字の集まりのため変更できたのではないか
- 地区外について、町名変更の手続きの内に含めることが出来るか

多様な世代の意見を取り入れるべき

- 子供のいる人の話を聞くべき
- 若い世代の親に参加を促すべき
- 学区などは子育て世代じゃないと不便さなどが分からない
- 決めるといっても町内会同士で話がついていることが重要
- 壱丁目と向山の方々が互いに話をすることが大切
- 参加者全体の関心は高い